提

言

H.C.アンデルセンの精神に学ぶ

公益財団法人船橋市公園協会

ふなばしアンデルセン公園長 細谷 順子

船橋市は、自然の中で強い子供を育てたい、友達を大切にする子供になってもらいたい、そして大人も童心に返ってのびのびと遊んでほしいという願いを込めて、1987年に「ワンパク王国」を開設しました。当初は約11.5haのレクリエーション施設でしたが、その後、平成元年に船橋市とデンマーク・オーデンセ市が姉妹都市として結ばれたことをきっかけに、オーデンセ市出身の童話作家「ハンス・クリスチャン・アンデルセン(以下H.C.アンデルセン)」をテーマに掲げて拡張整備をし、1996年に「ふなばしアンデルセン公園」として生まれ変わりました。その後も拡張を続け、現在では広さ約38.3ha、五つのゾーンからなる総合公園となりました。

1 特色ある五つのゾーン

(1)ワンパク王国ゾーン

ワンパク王国ゾーンはアスレチックやどうぶつふれあい広場などの施設を備えたゾーンです。このゾーンには子供たちが自ら考え、体を動かし、新たなことにチャレンジしていくための施設を多数備えています。巨大なアスレチックをいかに乗り越えるか、広大な広場でどう工夫して遊ぶか、動物たちとどのように触れ合うかなど、遊ぶことによって「考えて」「体を動かす」ことが自然と身に付いていきます。

(2)メルヘンの丘ゾーン

メルヘンの丘ゾーンは風車や農家など、H.C.

アンデルセンが生まれ育った19世紀のデンマークの風景を再現したゾーンです。普段なじみの少ないデンマークの文化に触れることができ、特に、風車、農家、童話館にはデンマークの生活様式を解説した展示等がなされ、日本でのデンマーク文化発信の一翼を担っています。

(3)子ども美術館ゾーン

子ども美術館は八つのアトリエで月替わりのプログラムが楽しめる「体験型の美術館」です。各アトリエでは、完成させる作品はある程度決まっているものの、その過程は自由で、アトリエにある資材や機材を使って子供たちが考えながら思い思いの作品作りを体験できます。また、年に数回開催される企画展では作品展示と併せ、作家から直接指導を受けながら作品作りに取り組めるワークショップも開催し、子供たちが本物のアートに触れる機会を提供しています。

(4)自然体験ゾーン

自然体験ゾーンは船橋市周辺でも古くから見受けられた里山の風景や樹林を再現したゾーンで、田んぼや小川、散策路から構成されています。ゾーン内の田んぼでは、子供たちが、田植えから稲刈りまでの米作りの工程を体験するイベントも開催しています。

(5)花の城ゾーン

花の城ゾーンは3歳以下の子供たちが楽しめる遊具が並ぶ「キッズガーデン」のほか、ゆっくりとお花の景色を楽しめる四季の庭な

どからなるゾーンです。キッズガーデンではアンデルセン童話をイメージしたオブジェや遊具が配置され、小さな子供たちが「ごっこ遊び」などを通して創造と空想の遊びを楽しめるような仕掛けがされています。

2 デンマーク・オーデンセ市との交流

ふなばしアンデルセン公園ではH.C. アンデルセンの精神を公園運営に活かすため、オーデンセ市との交流を行っています。子ども美術館でH.C. アンデルセンの知られざる特技の一つである切り紙の魅力を伝えるために、平成21年より「アンデルセン公園きりがみコンクール」を開催しており、アンデルセン童話をテーマにしたきりがみ作品を公募し、作品展示を行っています。大賞受賞者には副賞として「アンデルセンの足跡をたどる」デンマークの旅を贈り、同行する公園スタッフと共に現地博物館などの交流を行っています。また、コンクールではデンマークの各機関より賞を賜り、授賞式にはオーデンセ市博物館連合ほか、現地各機関から来賓をお迎えして盛大に開催しています。このような取組により、H.C.アンデルセンの精神を活かした公園づくりが評価され、2011年4月にはオーデンセ市アンデルセン賞委員会より、公園施設としては世界で初めてH.C. アンデルセン賞を受賞することができました。これ以後、デンマークで開催される授賞式への招待を受け、毎年出席しています。

3 デンマークの教育方針とは

数年前に在デンマーク王国日本国大使、佐野利男さんがふなばしアンデルセン公園に来園されました。その数年後、佐野さんが退職された後に執筆された本「女神フライアが愛した国」を頂戴し、デンマークの教育について書かれた

内容に感銘を受けました。デンマークでは幼児期から小学生までの教育は主教科よりもソーシャル・スキル（自分は自分、他者は他者）が主体で、将来、社会人として生きていくための能力や知恵、作法やルールなどを身に付ける教育を行います。小学校では最大25人までの少人数制で、一人の教師が4年以上同じクラスを担当し、長期間子供たちを見続けます。宿題は社会問題等について家族と話し合うものなどで、学習の進み具合を確認するテストは行われません。中学2年生までは教科より社会に適應する能力や社会貢献する姿勢など、社会性を身に付けることに重点を置いて学んでいます。その後の高等教育機関では勉学に励み、社会問題に対応できる力を養い、国際性と語学力を持った力強い個人主義者として世の中に輩出しているとのことでした。

4 H.C. アンデルセンの精神を活かした公園作り

デンマークの教育方針は日本ではあまりなじみがないようですが、現在の日本の教育方針に欠けている重要な要素の一つのように思われます。ふなばしアンデルセン公園には大きなアトラクションはありませんが、自然が最大のアトラクションです。自然の中で自由にのびのびと豊かな発想力を持って遊ぶことにより、考える力と行動する力が養われます。園内各所で遊び回ることにより自然と身に付く、常に新しいものにチャレンジしていく精神こそが H.C. アンデルセンの精神なのです。知識を詰め込むだけでは身に付けることができない「生きる力」がそこにあると思います。教育に携わる皆様に、少しでも参考になれば幸いです。